

第2回 校長語らいサロン

テーマ「これからの家庭学習の考え方」
～自学のすすめ～

令和6年11月2日（土曜日）

ダイジエスト版



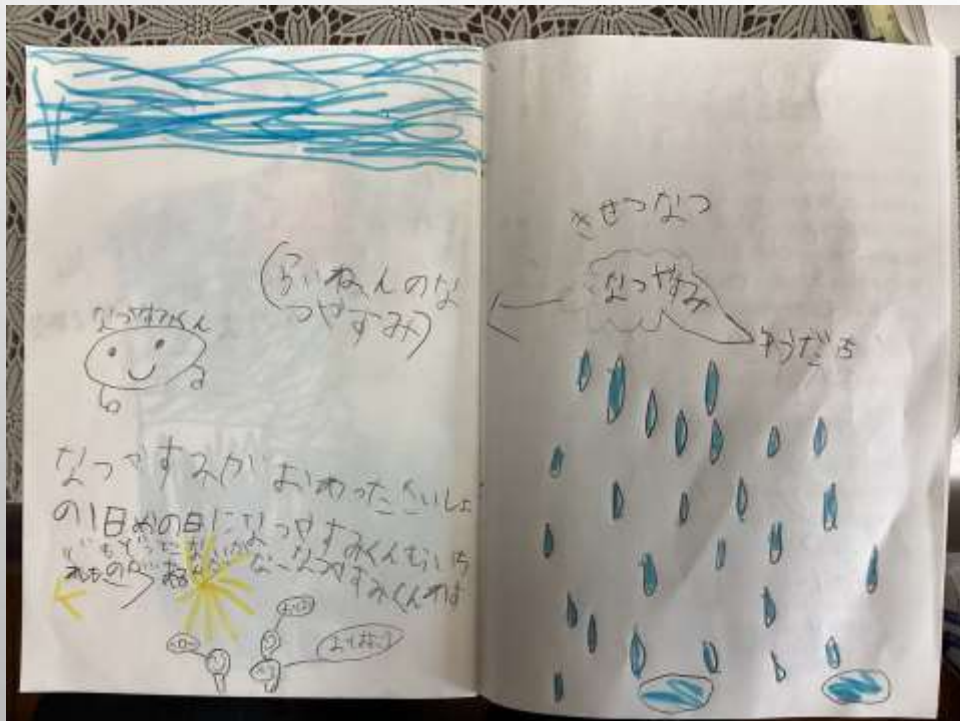
本日のお話のポイント

- 「宿題」の是非を問う 私たちのパラダイムを知る
- なぜ三吾小は宿題をやめるのか？
- 主体的な家庭学習の進め方
「自学のすすめ」



「宿題」の是非を問う 私たちのパラダイムを知る

- 事前に寄せられたご意見をご覧ください。



1年生の自学ノート

9月の暗唱課題「忘れもの」に取り組んで、
詩のイメージを膨らませた

1年生

- 我が家の子どもたちは「宿題」廃止の意図をあまり理解できていない様子です。聞いても、「よくわからないけど宿題はないんだよ！」と宿題はないと喜ぶばかりで、特に自学に励む様子もなく、週末急いでプリントを仕上げたりしている様子もあり大丈夫かな？と心配しています。子どもたちにどのように説明されていて、先生方の方針を子どもたちはどの程度理解できているのか気になっていました。
- 宿題を辞めるとなると、勉強からどんどん離れていきます。また勉強をしなくなり、学校に行ってもただ座っているだけになると考えます。特に低学年など主体性などは無く、自主学習も難しいかと思います。また家庭では共働きが増えて勉強やったか確認する時間が出来ないのが正直な所です。学校が宿題を廃止、家庭では勉強は見れない。義務教育の学校に行っているのに、お金を出して塾に行かなければならないのでしょうか？

1年生

- 宿題廃止に関しては、5.6年生は自分で学習の取り組み計画などを立て、自主性を養う取り組みとしては良いかと思いますが、低学年、ましては1年生には基本的な家庭学習の習慣もつかないうちから、自主学習を促すのは得策では無いと考えています。1年生のうちに、毎日の家庭学習の習慣を付け、+Aで自主学習の練習をして行き、徐々に自ら考えて学習できるようになる。。。というステップが必要なのではと思っています。
- 宿題だけはかろうじてやる、という子どもは宿題が無くなったら自宅学習は何もしないで終わるのではないかと思います。自宅学習をやる子、塾に行く子と何もせず過ごす子との差が大きく広がると思います。廊下においてあるプリントを持ち帰るよう言っていますが本人も忘れていることがあります。

2年生

- 宿題は廃止すると普段勉強の復習もかねているので子供がわからなかったら何処がわからないのかわかるので
- 宿題廃止には賛成しかねます。授業の復習の意味でもありますので、必要だと思えます。小学生の時は学習習慣をつけないと、中学生になったら、大変そうです。



3年生

- 賛成です。日常的にも長期休みも宿題は不要です。一律課したところでやらない子はやらないし、「やらされる」のは子どもにとって勉強嫌いになる一因だと思います。やらない子に宿題しなさい！と苛立つのも親子双方に良くないかと。習慣づけたいから宿題出せと要求されるといった記事も目にしますが、それって学校に要求する事？と感じます。学校にいる間に見守って教育していただければ十分ありがたい事だと思っています。
- 勉強するという事に対して、誰かにやらされてやるのではなく、自主性をもって自らの判断によって勉強をさせる事が目的だとは思いますが、各家庭の考え方1つで学力にかなり影響を及ぼすのかなと思うのと、主体的に生きる練習とはいえ、小学生という年代の子ども達が、遊びより勉強という選択をするかという事が心配です。時代の変化かな？とは思いますが、子ども達には学校組織という規律ある集団生活も学んでほしいなと考えます。

3年生

- 宿題が廃止されると思っていたらドリルは自分で進めてはいかなくてはならないと言われ、自分で決めて進まなければいけないことに、子供は困惑しており、親が決めて提示すると反抗してしまい、不安定になり、親として少し困っております。



4年生

- **宿題は選択制が良い**かなと思います。各家庭今は習い事が多かったり、受験する子や勉強重視の家庭は各自塾やオンラインなどで時間を割いているので、宿題という形でもうすでに1年前にやった内容の事を出されると、時間が無い中さいてやる宿題を苦痛だと感じるようです。(うちがそうです)特にうちは習い事も多く本気で目指してる事を習い事でもしていて時間をそれに割いているので**寝る時間を割いて宿題してま**す。
- 素晴らしい取り組みではあると思いますが、**家庭環境や個々のやる気の問題**もあるので、難しいところもあると思います。
- 宿題廃止による**学力格差が及ぼす授業妨害、学級崩壊**が少し気になります。

5, 6年生

- 宿題 = 「宿題したの？」がなくなりますね。なくなれば、自分の興味あることに時間を使えたら良いです。ですが、子どもが興味あることがないということがあった時にどう向き合っていけばいいのか。
- ある程度の課題はあった方が良いと感じます。



「宿題」の是非を問う 私たちのパラダイムを知る

- 自己紹介を兼ねて、「宿題」について思うところを話してみてください。



なぜ三吾小は「宿題」をやめるのか？

今の子どもたちの生きている世界

- **SOCIETY 5.0**の到来 インターネットに常時接続、**AIと共に生きる時代**
- 地球環境の悪化、自然災害、戦争など **予測不能、解決困難な問題**
- 基礎学力、身体的健康度は世界最高水準、**幸福度、学習意欲や自己肯定感、社会的スキルは最低レベル**
- **不登校34万人、若者の自殺者数増加、本校の個別指導計画作成児童数100名（約5人に一人）**

なぜ三吾小は「宿題」をやめるのか？

令和5年度から「**児童の主体性の育成**」をテーマに学校の大改革に着手

子どもが「主語」になる学校にするために

「子どもを信じ、任せてみよう」「子どもに行動選択、決定をさせよう」「子どもに責任を教えよう」

そのために、学校は

「一斉指導をやめる」「**一律の宿題をやめる**」「評価の仕方を変える＝通知表を変える」「ノーチャイム」「ノー号令」「異学年交流の日常化」「インクルーシブ教育」などに挑戦中



なぜ三吾小は「宿題」をやめるのか？

取組の結果、今三吾小の子どもたちはどうなって来ているか？（10月現在）

「運動会では**実行委員にめあてや練習方法を話し合わせ、子供たち主体で進めた**。ダンスの振り付けも、担任が前で教えるのではなく、得意な子が先に覚え、グループごとに練習をさせた。そのため、前年度のように『先生が教えてくれるから』という**他人任せな児童は減り、声をかけなくても自主練をしたり教え合いをしたり進める姿が見られた**。中でも**一番大きく変わったことは、練習の始めに大人が声をかけなくなったこと。自分たちで始められるようになってきた。これは学習時間も同じで、担任がいなくても学習を始めるようになってきた**。運動会の練習、学習時間を担任が進める時間ではなく、**自分たちで進める時間だと認識し始めたのだ**と思う。今回の反省点は子供たちに任せすぎてふりの細部までこだわらなかったことである。放任ではなく見守る立場である。もっとできる部分は子供たちに気付かせなければならない。（後略）」（4年担任のふりかえりより）

なぜ三吾小は「宿題」をやめるのか？

- **一律の「宿題」が育てるのはどんな子ども？**

「やれ」と言われたことに従う子、言われないとできない子

- **学力と「宿題」の関係は？**

子ども一人一人の学力は異なる、学び方は異なる

前提として、**学力が学校の学習時間ではつかない、という思い込みがある**

小学生については「**宿題に費やした時間と学習成果の相関はほぼゼロ**」 (ジョン・ハッティ、2018)

- **「宿題」は誰のため？**

親や教師の安心材料？



なぜ三吾小は「宿題」をやめるのか？

実は小学生に関しては、宿題に費やした時間と学習成果の相関はほぼゼロとのショッキングな研究がある。また、特に学校での勉強についていけない子どもにとって、宿題は勉強嫌いをさらに悪化させる大きな要因になっているとも言われている。

他方、中学生にとっての宿題の効果は、小学生の約2倍、高校生は、そのさらに2倍になるとの研究もある。中高生の方が、学習習慣がついていたり、より目的意識をもって学習に取り組めたりするからではないかと考えられている（ジョン・ハッティ著、山森光陽監訳『教育の効果』図書文化、2018年）。

宿題を巡っては長い論争の歴史があるが、はっきりしているのは、**全員一律に、全く同じ宿題をさせる必要はない**ということだ。一人一人、学びのペースもレベルも異なっている。だから**宿題も、それぞれに合った内容を、自分のペースで進められた方がいい**。発達段階に応じて、**子どもたちがある程度自分で選択・決定もできた方がいい**。むしろ、その際の教師のナビゲーションやサポートはきわめて重要だ。

今後学校は、夏休みに限らず宿題をある程度個別化していったらどうだろう。「個別対応する時間なんてない」と言われるかもしれないが、**先生が宿題をいちいち点検しなくても、特に学力に影響はない**との研究もある。むしろ**先生が子ども同士で協働する力を存分に発揮できる環境をつくること、そして必要に応じた的確なサポートに注力することの方が、はるかに効果的である**との研究もある。

教育哲学者 苫野一徳氏 （中日新聞 2021年7月29日）

なぜ三吾小は「宿題」をやめるのか？

「学校」の役割を考え直す必要がある

教育基本法 第10条

「父母その他の保護者は、子の教育について**第一義的責任を有する**ものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。」

「学校」の**現状**は？



学校が抱える様々な教育課題の状況

不登校児童生徒数
(公立小中学校)



不登校生徒数
(公立高等学校)



暴力行為の発生件数
(公立小中学校)



日本語指導の必要な児童生徒数
(公立小中学校)



日本語指導の必要な生徒数
(公立高等学校)



特別支援学校に在籍する児童生徒数
(公立特別支援学校)



特別支援学級に在籍する児童生徒数
(公立小中学校)



通級による指導を受けている
児童生徒数(公立小中学校)



通級による指導を受けている
生徒数(公立高等学校)

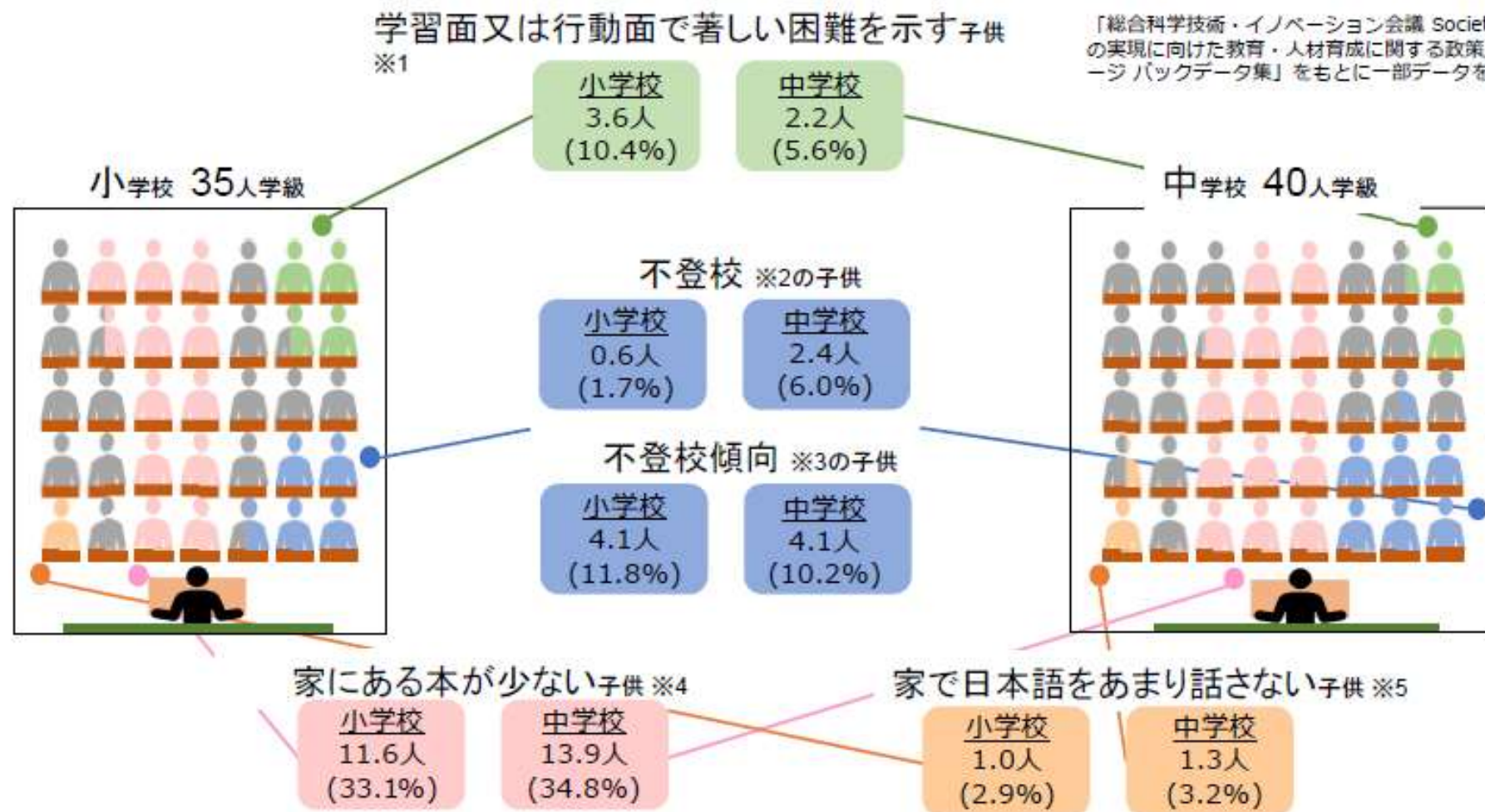


(出典) 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の対応態様に関する調査、日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査、学校基本調査、通級による指導実施状況調査結果。

「教師を取り巻く環境整備と今後の教育課程等の在り方について」
文部科学審議官 矢野和彦氏 令和6年10月24日(木)より

教室の中にある多様性

「総合科学技術・イノベーション会議 Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ バックデータ集」をもとに一部データを更新



※1 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果 令和4年12月(文部科学省)

※2 令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文部科学省)

※3 不登校傾向にある子どもの実態調査(日本財団)

※4 令和5年度 全国学力・学習状況調査 児童質問紙、生徒質問紙(あなたの家には、およそどれくらい本がありますか。)において、「0~10冊」又は「11~25冊」と答えた割合

※5 令和3年度 全国学力・学習状況調査 児童質問紙、生徒質問紙(あなたは、家でどれくらい日本語を話しますか。)において、「全く話さない」又は「ときどき話す」と答えた割合

教師の厳しい勤務実態について

1. 教師の時間外在校等時間の推移

○改善はしているものの、依然として**長時間勤務の教師が存在**。

【1か月の時間外在校等時間の平均】

	令和4年(2022年)度	平成28年(2016年)度
小学校教諭	約41時間	約59時間
中学校教諭	約58時間	約81時間

※教員勤務実態調査等を踏まえた年間を通じた推計。

2. 平日の教諭の休憩時間の平均(10月・11月)

○所定の休憩時間内ではほとんど**休憩時間が確保できていない**。

	小学校	中学校
所定の休憩時間内 にとった休憩時間	5分	7分

※上記を含め、出勤時刻から退勤時刻内にとった休憩時間は、小学校・中学校ともに23分。

※令和4年度教員勤務実態調査速報値より。

※秒は切り捨て、「教諭」には主幹教諭・指導教諭を含む。

3. 長時間勤務の教師の割合

○時間外在校等時間が**月80時間以上と推計される教諭の割合は、小学校14.2%、中学校36.6%**であり、**長時間勤務の教師が多い状況**。(令和4年度教員勤務実態調査の速報値をもとにした推計値)

小学校・教諭



14.2%

中学校・教諭

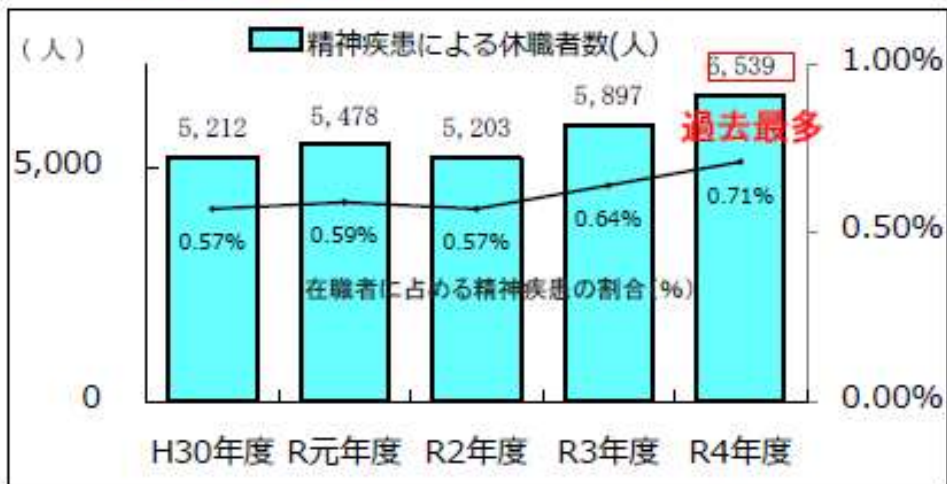


36.6%

月80時間以上

4. 教育職員の精神疾患による病気休職者数の推移

○R4年度には、精神疾患による病気休職者数は**過去最多を更新**。
○要因は多岐にわたるが、教師は対人関係を基本とした職であり、近年、**業務の質の困難化や教諭間の業務量・内容のばらつき、保護者等による過剰な苦情、不当な要求等**が挙げられると考えられる。



※公立学校教職員の人事行政状況調査より。

①10・11月1日現在推計値。
②1週間当たりの正規の勤務時間は36時間45分。
※上記グラフは、在校等時間から本課金の請求時間を一律で差し引いている。
※「教諭」については、主幹教諭・指導教諭を含む。
※上記の「月80時間以上」の割合は、調査対象者と調査対象者以外の者の各教師の在校等時間(全く同じだと仮定し)を基にしたもの。

なぜ三吾小は「宿題」をやめるのか？

1 学校は、学習時間で子供たちに学力を付けさせる。

※「学力」とは、単なる「知識・技能」の量だけでなく、その知識・技能を「どう使うのか？」という「思考力・判断力・表現力」で学びの質を高め、自ら学びを調整し、自分を高めていこうとする「学びに向かう力・人間性」であると、現行の指導要領ははっきりと示している。

→ 学校での学習が楽しくなれば、家に帰って自分から学ぶ子供に育つ。

2 学校と家庭の役割をはっきりさせる。

各家庭の状況は千差万別で、一律の対応は不可能である。

子供が家庭で勉強するかどうかは家庭の問題。

主体的な家庭学習の進め方 「自学のすすめ」

自学のすすめ (取り組み例)						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
こんな学習に取り組んでみよう!						
国語	<ul style="list-style-type: none"> ①ひらがな・カタカナれんしゅう <ul style="list-style-type: none"> - ひらがなやカタカナのことばを、あつめよう。 ②かんじれんしゅう <ul style="list-style-type: none"> - かんじをつかって文をかいたり、れんしゅうしたりしましょう。 ③につき <ul style="list-style-type: none"> - その日にあったできごとを文でかきましょう。 ④おはなしづくり <ul style="list-style-type: none"> - おはなしのつづきをそうぞうしてかきましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ひらがな・カタカナれんしゅう <ul style="list-style-type: none"> - ひらがなやカタカナのことばを、あつめよう。 ②かんじのれんしゅう <ul style="list-style-type: none"> - かんじをつかって文を書いたり、れんしゅうしたりしましょう。 - かんじのなりたちをしらべてみましょう。 ③日記 <ul style="list-style-type: none"> - その日にあったできごとを文でかきましょう。 ④お話作り <ul style="list-style-type: none"> - お話のつづきをそうぞうして書きましょう。 ⑤言ばしらべ <ul style="list-style-type: none"> - 四字じやく語やことわざをしらべましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ①俳句 <ul style="list-style-type: none"> - 意味調べ・ことわざ調べ ②学習日記・生活日記 ③漢字の学習 ④読書の感想 ⑤ローマ字の練習 	<ul style="list-style-type: none"> ①日記・学習日記 ②読書感想文 ③俳句や短歌、詩をつくる ④四字熟語の意味調べ ⑤ローマ字の練習 <ul style="list-style-type: none"> (ローマ字で好きな言葉や日記をかいてみよう。) 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習日記・生活日記 ②俳句・短歌・川柳 ③ことわざ・慣用句 ④熟語集め ⑤同じ読み漢字集め ⑥同じ部首の漢字集め ⑦新聞のスクラップ 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習日記・生活日記 ②俳句・短歌・川柳 ③ことわざ・四字熟語 ④〇画の漢字調べ ⑤同じ部首の漢字調べ ⑥漢字熟語しりとり ⑦意味調べ ⑧手紙 ⑨行事の感想 ⑩読書・短い感想文
算数	<ul style="list-style-type: none"> ①たしざん・ひきざん <ul style="list-style-type: none"> - いろいろなひきざんをくりかえししましょう。 ②さんすうのおはなしをつくる <ul style="list-style-type: none"> - じぶんでおはなし(もんだい)をつくりましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ①たし算・ひき算・かけ算 <ul style="list-style-type: none"> - いろいろな計算をくりかえししましょう。 ②文しようもんだい作り <ul style="list-style-type: none"> - 自分で文しようもんだいをつくってといてみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今日の授業のふくしゅう ②図形の学習(身の回りの図形を探そう・コンパスでもようを書いてみようなど) ③スピードトライアルの練習 ④文章問題づくり ⑤2年生のふくしゅう(九九・時計・図形・長さ・など) 	<ul style="list-style-type: none"> ①計算ドリルで計算練習 ②コンパスや分度器で図形を書く ③授業のまとめや発展問題に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業の復習 ②自分で問題を作って解く ③計算ドリル ④図形をかき練習 ⑤4年生の復習 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業の復習 ②自分で問題を作って解く ③計算ドリル ④図形をかき練習 ⑤5年生の復習
その他	<ul style="list-style-type: none"> 【生活】 ①おもしろいあそびのやりかたをかきましょ。 ②おもしろいおはなしをかきましょ。 ③おもしろいおはなしをかきましょ。 ④おもしろいおはなしをかきましょ。 	<ul style="list-style-type: none"> 【生活】 ①手作りおもちゃしようかい <ul style="list-style-type: none"> - おもちゃの作りかたをいっしょにしよう。 - そび方をしよう。 ②どうぶつしようかい <ul style="list-style-type: none"> - 生き物の絵をかきましょ。 ③おもしろいおはなしをかきましょ。 ④おもしろいおはなしをかきましょ。 ⑤おもしろいおはなしをかきましょ。 	<ul style="list-style-type: none"> 【社会】 ①地図を調べる ②おもしろいおはなしをかきましょ。 ③おもしろいおはなしをかきましょ。 ④おもしろいおはなしをかきましょ。 ⑤おもしろいおはなしをかきましょ。 	<ul style="list-style-type: none"> 【社会】 ①都道府県を調べて覚える ②都道府県の特産品を覚える 【理科】 ①月や星を観る ②植物を観察 ③天体観測 ④植物を観察 ⑤植物を観察 ⑥植物を観察 ⑦植物を観察 ⑧植物を観察 ⑨植物を観察 ⑩植物を観察 ⑪植物を観察 ⑫植物を観察 ⑬植物を観察 ⑭植物を観察 ⑮植物を観察 ⑯植物を観察 ⑰植物を観察 ⑱植物を観察 ⑲植物を観察 ⑳植物を観察 ㉑植物を観察 ㉒植物を観察 ㉓植物を観察 ㉔植物を観察 ㉕植物を観察 ㉖植物を観察 ㉗植物を観察 ㉘植物を観察 ㉙植物を観察 ㉚植物を観察 ㉛植物を観察 ㉜植物を観察 ㉝植物を観察 ㉞植物を観察 ㉟植物を観察 ㊱植物を観察 ㊲植物を観察 ㊳植物を観察 ㊴植物を観察 ㊵植物を観察 ㊶植物を観察 ㊷植物を観察 ㊸植物を観察 ㊹植物を観察 ㊺植物を観察 	<ul style="list-style-type: none"> 【社会】 ①都道府県を調べて覚える ②都道府県の特産品を覚える 【理科】 ①月や星を観る ②植物を観察 ③天体観測 ④植物を観察 ⑤植物を観察 ⑥植物を観察 ⑦植物を観察 ⑧植物を観察 ⑨植物を観察 ⑩植物を観察 ⑪植物を観察 ⑫植物を観察 ⑬植物を観察 ⑭植物を観察 ⑮植物を観察 ⑯植物を観察 ⑰植物を観察 ⑱植物を観察 ⑲植物を観察 ⑳植物を観察 ㉑植物を観察 ㉒植物を観察 ㉓植物を観察 ㉔植物を観察 ㉕植物を観察 ㉖植物を観察 ㉗植物を観察 ㉘植物を観察 ㉙植物を観察 ㉚植物を観察 ㉛植物を観察 ㉜植物を観察 ㉝植物を観察 ㉞植物を観察 ㉟植物を観察 ㊱植物を観察 ㊲植物を観察 ㊳植物を観察 ㊴植物を観察 ㊵植物を観察 ㊶植物を観察 ㊷植物を観察 ㊸植物を観察 ㊹植物を観察 ㊺植物を観察 	
タブレット端末を活用してのふりかえり学習 (ミライシード・デキタス)						
<p><保護者の皆様へ></p> <p>本校では、教育目標の「自立」(自ら学び、考え、行動する人)を体現する学習活動として、児童自らが課題を設定して取り組む学習を推進しています。これからの時代を生きる子供たちには、主体的に課題を発見し、その課題を解決するための方法を自ら探っていく意欲や、課題解決に必要な知識・技能を身に付けていくことが大切です。家庭での学習において、「自学のすすめ」を参考にしながら、自分なりの学習を進められるよう、お子さんに励ましの言葉をかけていただきますようお願いいたします。</p>						

「トックピッキング学習」

主体的な家庭学習の進め方 「自学のすすめ」



主体的な家庭学習の進め方 「自学のすすめ」

例) 漢字の習得

- ・覚えたかどうかを確認するテストを実施する。
- ・覚えるべき漢字の範囲と、いつまでに覚えるかを提示。
- ・各自の目標を立てさせる。
- ・覚え方は、各自に任せる。(計画的に学習することを指導する。)
- ・テストを実施。各自、自分の習熟度を確認。足りなかったところは、練習する。



→ **多くの学級で、宿題をやめた後の方が平均点が上がってきている。**

これからの家庭学習の考え方



第2回 校長語らいサロン

テーマ「これからの家庭学習の考え方」
～自学のすすめ～

令和6年11月2日（土曜日）

ありがとうございました

